

静かな空

連絡先 742-2513 山口県大島郡周防大島町森 365 中尾久利 Tel+ Fax : 0820-78-1246

デシベル騒音度の地区別比較

周防大島町が国から入手した騒音デシベル値を見る

4月23日、周防大島町総務課が、国の関係機関から提供された米軍機爆音デシベル値の表を提示してくれました。周防大島町5地点における、昨年4月から今年1月までの、毎日の最大爆音値のリストです。測定器の不調のために測定できなかった日もありますが、70デシベルが5秒以上続いた飛行の爆音のデシベル値のうち、毎日の最大値が記録されています。

岩国市が独自にデシベル測定器を設置した、爆音が大きい5地点でのデシベル値と比較すると、下掲表のようになります。これはその月の最もデシベル値が高かった日のデータで、岩国市の中心部5地点と大島の爆音測定器が設備されている5地点の爆音の激しさを比較することができます。

月別	三蒲小	浮島小	久賀小	大島中	油田	川口町	尾津町	由宇港	神東	大畑
2018. 4	95.6	95.9	95.8	93.8	84.1	100.8	106.9	100.8	98.8	99.9
5	97.8	94.3	86.2	98.7	86.6	109	105.3	101.4	96.2	101.2
6	98.4	86.2	85.1	90.9	77.1	100.5	104.7	99.1	95.6	96.3
7	86.5	81.4	78.9	86.9	80.6	98.7	102.9	100.3	100.1	97.4
8	95.2	81.2	86.4	92.7	78.5	97.9	102.8	98.4	98.6	100.2
9	91.9	87.9	77.5	94	82.8	99.6	107.9	99	101.3	98.3
10	91.5	88.5	86.7	90.2	85.1	100.1	107.5	98.7	99	100.9
11	93.2	90.4	80.6	96.4	82.2	99.9	104.6	96.8	99.5	95.4
12	96.7	89.6	91.5	96.8	86.2	99.6	107.2	101.8	101.8	100.6
2019. 1	95.6	91.6	93.2	98	82.6	99.7	106.2	100.9	98.6	95.5
2	—	—	—	—	—	104.4	107	98.1	99.3	98.5
3	—	—	—	—	—	101.1	108.4	100.7	99.6	104.1
年間平均						86.4	88.1	87.6	84.9	85.4
年間最高						109	108.4	101.8	101.8	104.1

周防大島町5地点の騒音デシベル値は総務課提供の資料による。岩国市5地点の騒音デシベル記録データは岩国市ホームページ <http://www.city.iwakuni.lg.jp/soshiki/16/7212.html> のデータにより作成。

一見してわかるように、大島の爆音は岩国市各地の爆音にかなり近い値です。特に滑走路に着陸する飛行コースの真下に位置する三蒲小学校、大島中学校の爆音が激しく、岩国市由宇町の値を上回る月もあるほどです。この2地点の最高爆音は90デシベル以上で、岩国市の基地至近地に匹敵する値です。

参考までに、周防大島町内の5地点での、毎日の70デシベル以上の最高騒音記録を70-79、80-89、90-100の3段階にわけて日数を集計すると、次のような数になり、最高90デシベル台だった日数が相当多いことがわかります。

測定地点：三蒲小学校、浮島小学校、久賀小学校、大島中学校、油田出張所

左側 90は90.0-99.9デシベル、80は80.0-89.9デシベル、70は70.00-79.9デシベル。

右側の数値は最大騒音値がこのレベルだった日数

	三蒲	浮島	久賀	大島	油田
2018.4	90 10	90 2	90 3	90 4	90 0
	80 7	80 8	80 4	80 8	80 2
	70 6	70 6	70 13	70 7	70 12
2018.5	90 14	90 4	90 0	90 4	90 0
	80 8	80 10	80 11	80 12	80 3
	70 5	70 10	70 8	70 5	70 12
2018.6	90 5	90 0	90 0	90 1	90 0
	80 13	80 6	80 4	80 8	80 0
	70 7	70 13	70 8	70 10	70 7
2018.8	90 1	90 0	90 0	90 2	90 0
	80 15	80 3	80 3	80 6	80 0
	70 8	70 18	70 8	70 9	70 4
2018.11	90 6	90 1	90 0	90 4	90 0
	80 12	80 5	80 2	80 10	80 1
	70 7	70 10	70 12	70 6	70 6
2018.12	90 11	90 0	90 2	90 8	90 0
	80 5	80 4	80 4	80 5	80 1
	70 7	70 13	70 9	70 5	70 7
2019.1	90 12	90 2	90 2	90 4	90 0
	80 7	80 12	80 9	80 10	80 1
	70 5	70 7	70 8	70 5	70 6

三蒲小と大島中の爆音度が高く、全336日のうち、三蒲小では59日(18%)、大島中でも27日(8%)が、最高90デシベル台です。95デシベル以上の日が多く、三蒲小98.4デシベル1回、大島中98.0デシベル1回というのは驚きでした。

デシベルの騒音度は一般に次のように説明されています。

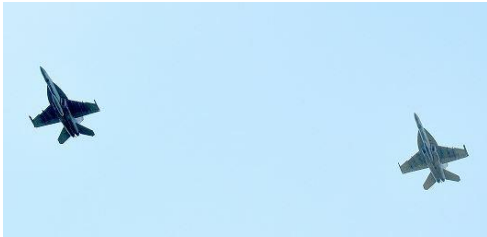
- 100 電車が通る時のガード下、地下鉄の構内。会話はほとんど不可能
- 90 カラオケ音(店内中央)、犬の鳴き声(直近)。会話はほとんど不可能
- 80 走行中電車内、救急車サイレン(直近)、パチンコ店内。会話は大声で30cm以内
- 70 高速走行自動車内、騒々しい事務所内、セミ鳴き声(直近)。会話大声で1m以内

今回、周防大島町が国から得たデータでは、まだ、1日の全飛行のうち、70デシベル台、80デシベル台、90デシベル台の各段階の飛行回数が何回か、わかりません。また時刻が判らないので、夜間飛行か昼間飛行か、連続飛行かとびとび飛行か、も不明です。機体撮影がないので、単機飛行か編隊飛行かもわかりません。これらのデータまで国に求めてもダメでしょうから、町独自の測定器が必要です。

米軍機爆音データ、苦情電話先は周防大島町ホームページの「航空機爆音の受付」を参照

スーパーホーネット FCLP 事前訓練

「岩国基地フレンドシップデー」がおわった5月7日、戸村良人さんがひさしぶりに文珠山へのぼりました。9時到着、10時すぎからスーパーホーネットが編隊で文珠山上空を飛行しました。



10時18分 米海軍艦載機 F/A-18E/F
スーパーホーネット戦闘攻撃機 2機



10時18分 米海軍艦載機 F/A-18E/F
スーパーホーネット戦闘攻撃機 3機



10時28分 米海軍艦載機 F/A-18E/F
スーパーホーネット戦闘攻撃機 2機

11時 米海軍艦載機
グレイハウンド空母
連絡機 (岩国基地)
31番機



しかしこのあと、パツタリこなくなりました。

展望台の望遠鏡でみると、岩国基地から大島方向へ離陸した米軍機が、藤生沖で右（東方向）へ旋回し、大島の方へは来なくなりました。文珠山上空から基地へ着陸する飛行をやめて、廿日市側から基地へ着陸する飛行に変え、大島方向へ飛び立ちながら、東（倉橋島方向）へ飛行コースを転換したのです。こういう飛び方の時は大島は助かりますが、着陸コースの廿日市や、ジェット機の噴気孔の爆音を浴びせられる藤生の爆音は大変です。6月12日も大部分が廿日市側から着陸で、文珠山の写真はとれなかった、とのことでした。

タッチアンドゴーして滑走路周辺を旋回した回数

硫黄島 FCLP の直前の岩国基地の飛行についての戸村さんの報告：

5月8日（水） 15時32分～16時08分

米海軍艦載機 F/A-18E/F スーパーホーネット戦闘攻撃機

203 番機：5回 212 番機：5回 102 番機：5回

107 番機：5回 101 番機：5回 204 番機：5回

5月9日（木） 15時49分～17時10分

米海軍艦載機 F/A-18E/F スーパーホーネット戦闘攻撃機

102 番機：6回 301 番機：5回 200 番機：6回

115 番機：5回 211 番機：6回 203 番機：5回

207 番機：5回 102 番機：5回 （戸村良人提供）

102 番機合計 16 回、203 番機 10 回を最多とし、スーパーホーネット 11 機が 5～6 回連続のタッチアンドゴー訓練をおこなったこととなります。これは明らかに FCLP の事前訓練です。

岩国市は 2008 年、自治会連合会から提出された要望にもとづいて「市民の安全・安心を守るために必要な 43 項目の要望」を政府に提出しました。その第 30 項目要望には「岩国基地において、空母艦載機等による FCLP、及び**事前集中訓練**を実施しないこと」と明記されています。岩国市は、FCLP だけでなく、FCLP のための事前訓練飛行も行わないことを要望したのです。

これに対する「政府回答」には、FCLP についても、FCLP の事前訓練についても一語もなく、夜間の FCLP である NLP について、米側は「基本的に岩国飛行場で NLP を実施することはない」と言いながら、「硫黄島において天候不良などにより十分な訓練が実施できない場合には、岩国飛行場において NLP が実施されることがありうる」と答えました。つまり岩国市の要望は無視されたのです。今回の FCLP のための事前訓練は、こういう 2008 年の政府の基本方針によって、公然と実施されたのです。艦載機 60 機移駐以後は、43 項目要求の「FCLP とその事前訓練の中止要望」を無視する飛行について、岩国市は何の意思表示もしていません。

何と、岩国市に防衛省の『航空博物館』とは

艦載機 60 機の移駐によって、米軍機が岩国基地の周辺の瀬戸内海の町々に爆音災害と事故不安をもたらし、住民の苦情や抗議が激増している中で、岩国市は防衛省に『航空博物館』を設置することを要望したそうです。

「基地の街 全国に発信」

「岩国市は、海上自衛隊岩国基地や米軍岩国基地の航空機資料などを展示する『航空博物館』の基本構想をまとめ、防衛省に整備を要望した。・・・基地の街として全国に知名度向上を図る狙い」（中国 2019. 6. 1）

安倍政府ならそういう構想を描くこともありえますが、それでも住民の反対を予想して、

今それを表にだすことははばかるでしょう。ところが、こともあろうに当の岩国市が防衛省に「航空博物館設置を要望した」という記事。博物館の目的は、基地の街としての全国的な知名度を高めることにあり、離着陸が直接に見られる場所に設置し、日米交流ゾーンも作るのだそうです。

5月5日のフレンドシップデーの航空ショーは「航空博物館」の特別展示になります。オスプレイや垂直離着陸機の離陸・着陸、戦闘機や給油機のタッチアンドゴーの壮観を見せ、全国から航空マニアが見物に来て、観光産業が繁昌するでしょう。大島上空から低空飛行（663mの文珠山頂より低いこともある）で滑走路に着陸する米軍機も「航空博物館」の目玉展示物となります。岩国市は岩国市民や周辺自治体住民の迷惑を、いったい何と思っているのでしょうか。

世界遺産を目指す錦帯橋の博物館もないのに、「基地の街の知名度を向上させる博物館」とは！「岩国文化」＝「基地文化」でいいのでしょうか。

議員発言（要項） 山口県議会 2019年6月定例会議

井原すがこ議員

議員 4月と5月、滑走路の北側と南側の騒音はかなり悪化した。苦情件数と県の対応は。

理事 北側、南側のW値は平成20年度当時より減少、月別には増加した月がある。4、5月は他の月より高い。昨年と比べると、4月は16地点で減少、13地点で増加、5月は10地点で減少、14地点で増加した。基地や国へ申入れした。

議員 騒音はかなり悪化し、嘉手納や普天間よりもひどいと専門家の指摘もある。艦載機移駐の前と後とでは25地点中19地点で騒音が大幅増加したため、国に特別要望したのか。

理事 移駐の前も後も騒音の影響はある。この度も新たな課題を踏まえて特別要望をした。

議員 特別要望をするくらい（騒音が）ひどくなったというのに、それは関係ないとはどういうことか。米兵犯罪も増加し、金で買えない大切なものが失われている。爆音訴訟で違法判決が出るだろう。お金でごまかさないで違法騒音を大幅低減するため、行政の責任は。

理事 騒音軽減には、地元市町と取り組んでいく。

議員 艦載機移駐により騒音が増大し市民生活に深刻な影響が生じているという認識か。岩国日米協議会の確認事項の見直しが急務。FCLP予備施設の指定除外要望への回答はどうか

理事 FCLP予備施設指定の除外について防衛大臣はなるべく多く硫黄島で行うよう米側に求めるとの回答だった。

議員 特別要望に地域振興策が含まれ、金優先の傾向がある。騒音対策要望は金をとるための手段か、本気で騒音対策にとりくむのか。FCLP予備施設除外は艦載機移駐受け入れの前提であり、今更要望するレベルの問題ではない。その方法は。

理事 住民も自治体も基地負担を抱え続けるので、交付金実施を求めている。FCLP予備施設は認めないという基本姿勢だ。これからも無くしていくことを求めている。

議員 フレンドシップデーで、市民がチラシを配布したとき、銃を持った日本人警備員が基地の外へ出、チラシを回収した。政治活動の自由の侵害であり、銃刀法違反でもある。

県警本部長 承知してない。法令違反なら関係機関が対応する。警備員の装備は米軍基地の安全に関わることであり、警察としては答えられない。

議員 米兵が車を盗み、集合住宅の車に衝突、飲酒運転という犯罪。逮捕されたのか。

本部長 現在任意捜査中。（罪証隠滅の警戒などの）必要性がないので、逮捕していない。

長谷川公一先生を囲んで (1)

長年、東北大学で環境社会学を研究されてきた長谷川公一先生が、この4月に周防大島を訪れて下さいました。翌日には、「大島の静かな空を守る会」のメンバーとともに昼食を一緒にしながら、日本のみならず世界の原発問題や市民運動のあり方について、いろいろと示唆に富むお話を伺うことができました。その様子を、主に長谷川先生のご発言を中心に、ここに掲載したいと思います。

藤村友起

日時：2019年4月25日(木)12時から

場所：故藤村英子邸にて

参加者：長谷川公一先生、河井弘志、河合建夫、河本正道、木谷光雄、中尾久利、藤村美千枝、藤村友起

長谷川公一先生略歴

1954年山形県生まれ。東京大学大学院社会学研究科博士課程単位取得退学。社会学博士。東北大学大学院文学研究科教授。専門は環境社会学、社会運動論、市民社会論。脱原発を目指して、原発問題について世界的に研究を続けるなか、あの2011年の東日本大震災で自身も被災し、福島原発事故を間近に体験した。そこから日本が、そして世界がどう変わっていくべきかを切実な問題として考えるようになり、岩波新書として『脱原子力社会へ』という一冊を書き上げた。俳号を冬虹として、俳句にも造詣が深い。



主著 『脱原子力社会へ—電力をグリーン化する』(岩波新書)
『脱原子力社会の選択 増補版—新エネルギー革命の時代』(新曜社)
Constructing Civil Society in Japan (Trans Pacific Pr)
『環境運動と新しい公共圏』(有斐閣)
『紛争の社会学』(放送大学教育振興会) 他

(参加者が自己紹介した後、福島原発の放射能を帯びた燃料棒の話題から)

中尾 (福島原発の)燃料棒はどこにも受け入れるところはないでしょうね。

長谷川 あの敷地のなかに置くしかないですよ。

中尾 タンクの汚染水はほんとに溜めてるんですかね。海に流してるとか・・・。

長谷川 私もそのへんちょっと分からないんですけど。ものすごく雨が降った時に、流出するのは防ぎようがないんですよ。2、3年前に、仙台にも台風が来た時に、上陸した台風が異例のコースを辿って、福島原発の真上を通って、仙台に来て、岩手県の龍泉洞、岩泉町っていうところにすごく被害与えた時があったんですね。そういう台風が来た時なんかには、コントロールできないので、相当、流出してるんじゃないかと思いますね。そういう時、誰もチェックしないし、防ぎようがないから、たくさん出てる可能性とか、いろいろありますよね。

中尾 タンクに溜めても、終末処理する方法はないんですか。

長谷川 ないですね。だって放射線、すごい高い放射線のレベルですから、その水を、どうしたってね、もう時間を待つしかないんですからね。やっぱり放射性物質でいちばん厄介なのは、目に見えなくて、五感に感じるができないってことと、あと半減期が長すぎるってことですよね。

河井 すぐは痛くも痒くもないという・・・

長谷川 でもけっこう甲状腺の、子どもたちにね、影響が現れてるってことですからね。

中尾 政府は公表しませんね、子供さんの。賠償は考えないんでしょうか。

長谷川 因果関係を確定するのがすごく難しいわけですよね。その時に、どれくらい放射線に曝露したかっていう曝露値がないですよね。意図的に測っていなかった危険性も、勘ぐれば、あるようには思うんですよね。本当はあの事故が起こったら、まずすべきことは、徹底的にその周辺の線量をきちんと測って、それからちゃんと、特に子どもたちの線量を重点的に測ってっていうことをやるべきなのに、どこまでそれをやっているのか。だからやがて病気が起こった時に、因果関係がわからないようにするために、敢えて測ってなかったと、勘ぐればね。だからちゃんと声を上げておかないとっていうことですよね。(ここで木谷出席)

長谷川 羽田から岩国に来た時にびっくりしたんですけど、岩国空港は基地があるから、着陸する時にアナウンスがあって、写真も動画も撮るなって。私が今まで降りた日本の空港で、そういうアナウンスあったのは初めてです。

河井 沖合を飛んで、大島郡の上に来て、ぐるーっと文珠山の上を回って着陸するという。ここの住民が大変。デシベル 95 っていうのがざらにあります。今回先生は遠いところまでわざわざいらっしゃった、その目的は。

長谷川 私は山形県の、山の中で育ったんです。小学校三年生の時、壺井栄の『二十四の瞳』を読んで以来、春の瀬戸内に憧れてるんですよ。藤村君からも誘われたし、春の瀬戸内海に来たいな、っていう(笑)。私は俳句をやってましてね、一昨年かな、もうひとつ大島ってありますね、あの今治のどこにあるなに大島っていうのか(今治市大島)。

木谷 大島ちゅうのがあるんよ、けっこう大きな。村上水軍が。

長谷川 そうそう、村上水軍の拠点だったのよね、そこに行く機会があって、それで今度はぜひ周防大島に来てみたいなと思ひまして。

中尾 村上家はありますよ、ここにも。

長谷川 あれ村上武吉って書くのかな、お墓があるんですね。

中尾 あの家は最近まで酒屋やりよった、お一けな家。山形は雪が深いでしょ。

長谷川 山形県の中のいろんな町に住んだんですけど、最上町っていうところはわりと雪が深いところですね。そこでは「雪は下から降る」。風が強いんで、吹雪で下から降るんです。だから子どもころは、冬はよく停電になったり、あと集団登下校で、吹雪が一定以上強くなると、小学校が 2 時ぐらいで授業打ち切り、集団で下校とかいうのは、昔はけっこうありましたね。

中尾 山形いうたらさくらんぼとか。

長谷川 私たち子どもころね、「山形は果物王国です」って、「山形で採れない果物はバナナとみかんです」って教わったんです。ところが今、山形の農事試験場で、庄内という日本海側でみかんの栽培の実験を始めています。2060 年くらいになると、みかんが作れるよう

になるって。

河合 (安下庄の高校は)いま建てよる最中じゃがね、耐震化いうのよ。それとね、防衛施設庁のお金が70パーセントくらい出るんじゃないか。名目は、防音工事とかなんとか。

河井 ここの中学校の窓とか冷暖房などの設備は防衛省の金でできてる。

長谷川 宮城県は東日本大震災で、特に三陸側が大きな被害を被って、人口減に伴って、小学校や中学校の統合が進んでるんです。学校っていうのはコミュニティの、地域のシンボルみたいな意味があるので、そういう意味では学校の統廃合が進んでしまうと、結局学校が無くなった地域が、急速に寂れますよね。

河本 避難解除しても、帰ってくる人は3割もないんですよ。

長谷川 岩手県や宮城県はけっこう帰っていますけどね、福島の場合だと、いつになったら安心できるのか、他の人がどう行動するのか、病院がどうなるのか、そういうことがわからないので。

中尾 福島から山口県に来た女性が、原発反対の大会で意見を述べよったが、普通1ミリシーベルトが限界でしょ？それが、20ミリシーベルトまでいいなんて、あこの人だけが20倍の放射線浴びても構わないっていう基準を作って、私達をバカにしてるって。だから帰ろうと思っても、そんな危ないところに帰れないって、言いよったよ。そりゃそうじゃろう、わしらだって嫌じゃあ。

長谷川 なぜ20ミリシーベルトにしたかっていうと、例えばいわき市とか、郡山市とか福島市なんかも避難区域になっちゃうと、その人たちの避難場所の確保が大変なことになっちゃうじゃないですか。あの時20ミリシーベルトで線引すると、避難対象者は大体8万人くらいで済むわけなんですよ。もし1ミリシーベルトの基準のままでやると、それこそいわき市人口30万とか、郡山市人口30万とかね、福島市も20数万とかいうので、それを合計すると、100万人以上の方が避難せざるを得ないということになる。それは非現実的だと、そういう配慮だったと思います。だから1ミリシーベルトを20ミリシーベルトにしたのは、安全だとかなんとかっていうことではなくて、8万人にとりあえず避難してもらっただけで手一杯でしょうっていう、そういう数字なんですよ。(以下次号)

安芸高田市議会 日米地位協定の見直しを求める意見書 (全会一致採択)

全国知事会が「米軍基地負担に関する提言」を全会一致で採択したのを受けて、広島県北部の安芸高田市の市議会が、「日米地位協定の見直しを求める意見書」を全会一致で採択しました。13都道府県に78の米軍基地があり、うち31は沖縄県内、面積では全国の70%が沖縄県内と指摘し、「全国知事会」の提言の意義を高く評価しました。この提言に沿って、訓練ルート of 事前情報の提供、航空法や環境法令などの国内法を米軍に適用、米兵の事件・事故防止策、基地の整理・縮小・返還の促進を要請し、ドイツ・イタリアが地位協定改定を実現した意義も強調しました。安芸高田市はこれまで米軍機の低空飛行訓練に悩まされてきた所ですが、そういう身近事情に限定せず、沖縄の基地災害の解消、全国の基地状況の改善のために日米地位協定の改定を求めたのは、まさに市民の良識と言うべきでしょう。周防大島町の議会にそういう高い見識を求めるのは無理な事でしょうか。

協力金感謝します

2019年5月、仙台市の方から協力金5000円いただきました。有難うございました。